

2021年度 研修分科会開催案内

第2回

発行 2021年6月2日

第2回 開催日時 2021年7月9日(金) 13:00-17:00
オンライン開催 (Zoom ミーティング)

第2回テーマ 電子ブック

lthaka S+R は報告書 The Impact of COVID-19 on Academic Libraries*の中で、大学図書館へのコロナ禍の影響としてまず、”感染症が図書館の電子リソースやオンラインサービスへの投資を加速させた”ことをあげています。そして、この傾向は長期的に続くだろうと予測しています。

電子ジャーナルは出版流通主導で大学図書館は受身の状態から始まり、経費や蔵書構成に多大な影響を与えました。一方電子ブックは、辞書のような電子化によって付加価値(検索、軽量化等)が生じるものは先行したとはいえ、コロナ禍をきっかけに、まさに今増えようとしています。一般書の電子ブック化は、PDA (Patron-Driven Acquisition)や選定等能動的に導入が進められるかという点、せっかく導入しても利用されるようにするにはどうしたら良いかという点、図書館の財政削減下において適正な予算の使途か、永続的なコレクションになり得るかという点などなど、今大学図書館が立ち向かう最も重要な課題が含まれているようです。研修分科会の第2回は、図書館の学習支援の観点に立って電子ブックについて考えてみたいと思います。

* DOI: <https://doi.org/10.18665/sr.314507>

Time table

13:00-14:30	講演・質疑応答
14:30-14:40	休憩
14:40-15:40	課題発表
15:40-16:50	グループ討議・全体討議
16:50-17:00	次回予告

講演 電子ブックのこれから：国内と海外の動向. 西田和之氏、川村俊之氏(紀伊國屋書店)

明治維新以来西洋の書籍を日本文化に輸入したのは書店です。大学図書館にとって本屋さんは重要なステークホルダーです。電子ブック化とその活用方法について、同じ「学習支援」の観点でお話しいただこうと思います。また、海外の事例は、これからの電子ブックの利用を考える参考になるとと思います。

課題 学習支援に電子ブックを活用するためには

電子ブックについての取り組みを紹介するプレゼン資料(スライド4枚程度)を作成

【資料のポイント】

1. 各館の紹介
2. 電子ブックの導入状況と選定方法
3. 利用状況および、管理や提供の方法 (OPAC 検索の可否等)
4. 利用促進のアイデア

3分以内で発表していただきます。その後2~4についてグループ討議します。